

平成 23 年度第 7 回

県政知事懇談

湯崎英彦の宝さがし —未来チャレンジ・トーク

と き 平成 24 年 2 月 18 日 (土)

ところ 広島紙屋町地下街シャレオ中央広場

広 島 県

目 次 頁

開 会	1
知事挨拶	1
事例発表者紹介	2
ビジョン発表	2
事例発表	9
意見交換	23
挑戦発表	26
閉 会	32

開 会

(司会 (八幡))

大変長らくお待たせをいたしました。ただいまから「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を開催いたします。

私は、広島県広報課の八幡と申します。

本日は、チャレンジに向けて、元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうかよろしくをお願いいたします。

知事挨拶

(司 会)

それでははじめに、湯崎英彦広島県知事が御挨拶を申し上げます。

(知事 (湯崎))

皆様、こんにちは。今日はこの「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」にお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。土曜日の午後で大変お忙しいと思いますが、また今日はすごく寒くて、今、県庁から歩いてきましたけれども、実は外はすごい大雪になっています。この会場もちょっとオープンなので寒いですが、少々我慢しておつき合いいただければと思います。

この「チャレンジ・トーク」は、県内を8つの地域に分けて、それぞれ進めています。実は今回が最後から2番目になっています。これまで県内各地で開いてきました。

その前の年は、県内に23市町あるのですけれども、その市町それぞれを回ってまいりました。住民の皆様からいろいろなチャレンジをお話いただきまして、それでは、その皆さんが行われているチャレンジをまた住民の皆さんに御紹介しようということで今回のような企画になっています。

今日は、後ほど3人の方からチャレンジを御紹介いただきますし、それとは別途に、3分間トークということで何名かの方からそれぞれ行っていらっしゃる挑戦をお話いただくことになっています。いろいろなチャレンジがありますので、是非楽しみにお聞きいただければと思います。

それでは、今から100分ほどかかりますけれども、どうぞよろしくをお願いいたします。本日はありがとうございます。

(司 会)

湯崎知事，ありがとうございました。湯崎知事，壇上のお席にお願いします。

事例発表者紹介

(司 会)

それでは，本日の事例発表者の皆様を御紹介いたします。発表者の皆様は壇上にお上がりください。御紹介いたします。

はじめに，広島市で，市民と商店街との連携したまちづくりなど，豊かな地域づくりに取り組んでおられるNPO法人「セトラひろしま」理事長の若狭利康さんです。

続きまして，府中町で，子どもたちの情操教育・健康増進の支援など，安心な暮らしづくりに取り組んでおられる「ポパイの会」会長の田中宏光さんです。

熊野町で，地元のシンボルの山である「三石山」^{みついわ}の遊歩道の整備や，高齢者ふれあいサロンの運営など，豊かな地域づくりに取り組んでおられる川角地区自治会長の織田寛治さんです。

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様はお席にお戻りください。後ほど事例発表をよろしく願いいたします。

なお，海田町及び坂町からは，「私の挑戦」の発表の部において発表をしていただくこととなっております。後ほど御紹介をさせていただきますので，どうかよろしく願いいたします。

ビジョン発表

(司 会)

それでは，湯崎英彦広島県知事が「ひろしま未来チャレンジビジョン」についての発表を行います。湯崎知事，どうぞよろしく願いいたします。

(知 事)

ありがとうございます。それでは，最初に私のほうから広島県がこれからどういう方向に向かっているのかということについてお話をさせていただきます。

「ひろしま未来チャレンジビジョン」についてのお話ですけれども，この「未来チャレンジビジョン」というのは，広島県の10年後を見据えて，10年後にどんな広島県になりたいかということを描いたビジョンであります。昔は総合計画と言っていました。それをこういうビジョンという形で発表させていただきます。

今、県がいろいろな施策を展開しておりますけれども、基本的にはこのビジョンの実現のためにどういうことをやるべきか、ということ年ごとに落としまして施策を展開しています。

このビジョンには基本理念がございます。どういうものかといいますと、「将来にわたって、『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県を実現」していただくというものでございます。なんとなくこれだけを聞くと、抽象的で、当たり前のように聞こえるかもしれませんが、実はこの「生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思えるというのは、なかなか、それこそこれもチャレンジな理念ではないかと実際には思っています。

というのは、後ほどもまた詳しくお話ししますが、今、広島県でどういうことが起きているかといいますと、人口減少というのは皆さん御存知だと思います。人口減少には二つ要因があります。一つは自然減。自然減というのは、生まれる赤ちゃんに対して亡くなる方が多い。そのときに自然減というのが起きるわけです。それに対して社会減というものもあります。社会減というのは、広島から引っ越して外に出る人が、広島に引っ越してやってくる人よりも多いというときに社会減になります。実は、今、広島県においては、若い人を中心にほとんどの世代、大体18歳から60歳まで、すべての年代において社会減が起きています。つまり、皆さん広島から外に出て行く人のほうが多いということなのです。この「生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思えるということを実現できれば、この社会減というのは止まっていくだろうと思っています。是非広島に住んでみたい。いや、広島から大学とか就職でいったん出ても、やっぱり広島に戻りたいというふうに思ってもらえる。全体としてそういうふうになっていく。それを目指していくのがこのビジョンの基本理念です。

この10年後を考えると頭にに入れておかなければいけない、あるいは踏まえなければいけない大きな変化が二つあると思っています。人口減少・少子高齢化という部分、それから経済活動を始めとするグローバル化という点です。

特に人口減少というのがこれから大きく進んでいきます。広島県は実は平成10年が人口のピークで、広島県全体で約290万人の人口がありました。ところが、平成47年、今年が平成24年ですから、今から23年後、20年ちょっとすると240万人になります。つまり、290万人のピーク人口が240万人になる。50万人減るということです。広島県から50万人の人口がいなくなるのです。50万人がどれぐらいの規模かといいますと、佐伯区、西区、安佐南区、市の西側の三つの区が50万人ぐらいです。この三つの区から人が誰もいなくなるというのを想像して見ていただきたいのです。あとは一緒に、この三つの区から誰も人がいなくなる。そういう状況にこれから20年ちょっとでなってしまうということです。今、市内でいろいろな商売をやられている方もいらっしゃると思いますが、西区とか佐伯区とか安佐南区にお客さんがいらっしゃれば、そういうところのお客さんが誰もいなく

なるということです。それぐらいのインパクトがある大きなものです。ちなみに、東でいえば福山市が約 50 万人です。広島県から福山市がなくなるというインパクトです。そういう大きな人口の変化がこれから起きてきます。広島県ではもちろん、日本全体でもこれぐらいの規模で人口が減っていくというのは経験したことはありません。

それからもう一つ、高齢化というものも進んでいくわけです。働く人が 3 割減って参ります。働く人が 3 割減るといことはどういうことでしょうか。つまり、これは物を買うお財布も 3 割減るといことです。税金を納める人も 3 割減る。これを一体どうするか。例えば地域でも病院は維持していかなければいけない。あるいは、子どもが半分になったから学校も自動的に全部半分にすればいいじゃないかというわけにもいかない。そのようにしてしまったら、学校が遠すぎて通えませんとか、そういうことが起きてきます。こういう事態になったときにどうしていくかということが、これから、今、広島県、日本全体もそうですけれども、直面している最も大きな問題であると言えます。

もう一つあるのが、グローバル化ということです。グローバル化というのは、当たり前というか、これまで日本もいっぱい世界中に行って、アフリカの端っこの方までトランジスタラジオを売ってきたじゃないかというふうに感じられるかもしれませんが、今、進んでいるグローバル化というのは、競争が激しくなっているということです。

これまでのグローバル化というのは、日本が外へ出て行く。外へ出て行ったときに誰と競争したかという、大体欧米の国々です。アメリカ、カナダ、フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、そういったところ。ところが、今は御承知のとおり中国であるとか、韓国はもちろんのこと、東南アジアの国々、あるいはブラジル、こういった国々が世界中に出て行っているわけです。つまり、それだけ我々と一緒に競争する、あるいは一緒に働く相手がすごく増えてきているわけです。我々が好むと好まざるとにかかわらず、みんなが出てくるわけですから、その中に巻き込まれていくわけです。こういう社会に我々としてもまたどう対応していくかということが最も大きな課題の一つです。

そういう意味では、今、日本が迎えていますのは、非常に大きな時代の転換点です。日々生活していると、そういう感じはしないと思うのです。バブルがあって、景気が悪くなって苦しくなったと思われるかもしれませんが、でも、今はバブルの延長で大変だという時代はとっくに過ぎて、終わっている。むしろ、この人口が減っていくであるとか、あるいは、世界にたくさんの人が出て行っている、といったことが非常に大きな変化になっています。

この変化は実は明治時代の変化と同じぐらいのインパクトがあると思っています。明治時代も、御承知のように黒船がやってきて、日本は開国しました。日本がグローバル化をしたわけです。それまで閉じていたわけですけれども、黒船がやってきて、世界に門戸を開けと言われて、門戸を開いた。その結果、世界に日本も出て行ったのですけれども、そのときに相手にしなければいけなかったのは、先ほど申し上げたように欧米の国々で、せ

いぜい 10 カ国とか、十数カ国とかでした。今はその何倍も相手にしなければいけない。

それから人口が減っていく。これはこれまで経験したことがないことです。

明治時代のときには何をしたかという、士農工商という身分があったのを全部なくしました。各藩がお札まで刷っていた。偽金も作っていましたが、それはまた別の話で、各藩が作っていたお札を全部中央集権にしました。それぐらいドラステックな変化を起こしたわけです。

今は、そのときと匹敵するぐらいの時代の転換点なわけです。ということは、それぐらい驚くような変化を起こしてもしかるべきなのです。今、大阪の橋下さんが船中八策とか作って頑張っていますけれども、ああいうこともその一環ではないかと思うわけです。これまでとは全く違う、これまでどおりのことではない、新しいことに取り組まなければ、今のこの時代の変化を乗り切っていくのは難しいのではないかと。

そのためにはいろいろな挑戦をしなければいけない。挑戦というのは、何でしょうか。挑戦というのは、昨日までやっていたことと同じことをやるのでは挑戦とは言いません。挑戦というのは、新しいことだったり、あるいは簡単にはできないことだったりするもので、簡単にできることを私は挑戦しますとは言わないですよ。難しいこと、例えば山に登るのであれば、もちろん人によりますけれども、比治山に登るのは挑戦とは普通の人は言わないかもしれない。でも、エベレストに登るのは挑戦と言うと思うのです。難しいこと、失敗するかもしれないこと、でも、エベレストに登ったらすばらしいですよ。世界で一番高いところ。大きな成果が出る。大きな達成感がある。こういうことを挑戦と言うと思うのです。そういう難しいことに、あえて我々は取り組まなければいけない。そういう時代にあると認識しなければいけないと思っています。

そこで、県が行っていますのは、今、四つの分野に分けた挑戦というのを進めています。一つは「人づくり」、それから「新たな経済成長」、「豊かな地域づくり」、「安心な暮らしづくり」、この四つの分野です。ほとんどの政策はこの四つの中に落とし込んで入ってきます。

このうち特に足下で県が力を入れて進めようとしていますのが、「人づくり」そして「新たな経済成長」、この二つです。この二つを大きな柱にしようとしています。それはなぜか。安心な暮らしや豊かな地域をつくるのが行政の役割ではないか。それはそのとおりですが、この安心な暮らしや豊かな地域を将来にわたって、先ほど 20 年ちょっとで人口が 50 万人減っていくとありましたが、50 年後はもっと減っていきます。その時代にも安心な暮らしや豊かな地域を我々は維持しなければいけない。そのためには、まず「人づくり」と「経済成長」をしっかりとしていかなければいけないということで、まずこれに取り組んでいるとお考えいただきたいと思います。

人というのは、広島県が持っている唯一の資産です。オーストラリアとか、うらやましいです。中国もそうですが、そこに行ったら、露天で銅が掘れますとか、レアアースとか、そんな資源を持っています。そこにあるだけで、掘るだけで資源です。日本にそういうも

のがありますか。メタンハイドレートとかあるじゃないかと言われるかもしれませんが、そういうのはちょっとおいておいて、日本が持っている、あるいは広島が持っている資源というのは、やっぱり人なのです。この「人」が全て。暮らしづくりも、地域づくりも、経済も、全て人がつくっていくのが広島県なのです。ですから、この一番大事な「人づくり」にしっかりと取り組んでいくということが大事なのです。

それから、「新たな経済成長」については、この暮らしや地域を支えていくためには、現実としてはやっぱりお金がいるわけです。無い袖は振れない。いやいや、物質的な豊かさはいいじゃないかというお話もあるのですが、待ってください。地域にお医者さんが減っています。お産ができない市町が、広島県の23の市町のうち11市町になっています。県北では、庄原、三次、安芸高田で唯一、三次市民病院でしか出産できないのです。なぜでしょうか。お医者さんが意地悪だからではないのです。お医者さんはみんな一生懸命やっています。要するに、出産がないわけです。お産がない。だから、それぞればらけていたら、出産が少ないですから24時間対応できないわけです。お医者さんも生活があるわけですから、ちゃんと成立するお産がないと、そこにいられないわけです。だから、三次に集約しているわけです。でも、身近なところでお産できたほうがいいですね。お産だから分かりやすいですけども、外科にしても、内科にしても、みんな同じ状況です。採算は合わないけれども、地域にお医者さんをしっかり確保しようと思ったら、やはり税金、あるいは健康保険でそれを支えなければできないわけです。そういった原資をつくっていくことが必要で、それがなければ、どんなにすばらしい地域医療というものを描いたとしても、それは絵に描いた餅になってしまう。例えば医療の話ですけども、福祉でも、教育でも、全く同じことです。水道でも、ここは人口が3割減りましたから、水道も3割減らしますというわけにはいかないわけです。それを維持していく経済力というのを、これから人口が減っていく中でもきちんと確保しておくことが非常に大事なことです。

具体的にどういうことをやるのか。「人づくり」は、これからの本県を内外から支える人材の育成ということで、すべての県民が輝く環境の整備、こういうことを10年後に向けて進めようとしています。これも10年後の将来像なので当たり前のように書いてあるかもしれませんが、この全ての県民が輝く環境の整備というのは、なかなか具体的に言うの大変なことです。例えば高齢者であるとか、あるいは女性であるとか、あるいは今、就職難の若者であるとか、みんな生き生きと輝きたい。それを実現するにはどうしたらいいか。そういうことで、これは平成24年度の主な取組です。この度、予算を提出しましたけれども、平成24年度に行おうとしている取組です。

一つは、女性の社会参画の促進。先ほど人口が大きく減る、働き手の世代は3割減ると言いました。でも、実は女性の半分は働いていらっやらないのです。厳密にいうと、パート等を含めるともうちょっといらっやいますけれども、出産を機にいわゆる正規の社員から離れる人が相当いらっやいます。半分ぐらいいなくなる。あるいはもっといなく

なる。こういった女性がそのまま働き続けることができれば、この3割減るという問題に対して非常に大きく貢献することができます。そのためにも、女性の社会進出というのを応援していかなければいけない。

また、グローバル人材の育成。これからアジアの国々と我々が対等に付き合っていかなければいけない。今、ヨーロッパに行くと、日本の携帯電話より韓国のサムスンの携帯電話のほうがかっこいいと、日本人がそう言って買っていく。そういう時代になっています。そういうふうに、これからいろいろな人と付き合わなければいけないのですが、やっぱり小さい頃からしっかり準備をしていかなければいけないということで、例えば全ての県立学校で海外の学校と姉妹提携をしたり、あるいは交換留学をしたりということを進めています。また、広島県に大学留学に来られる方が2千数百人いらっしゃるのですけれども、これを5年間で倍増しましょう。また、県内の企業に就職している留学生が160人ぐらいいるのですが、これも5年間で倍増していきましようということを進めています。

また、先ほど申し上げた人口の社会減、ここに歯止めを掛けるために、大学生にUターンをどんどんしてきてくださいということを積極的に進めたり、あとはもちろん子どもたちの教育ということで、しっかりとした学力をつける取組だったり、生きる力をつけるため、いろいろな経験をしてもらう、といったことを進めています。例えば山・海・島体験事業というのがあります。これは子どもたちに海に行ってもらったり、島に行ってもらって、そこでの暮らしを実際に体験してもらおうということで、今年から、例えば島のおじいちゃん、おばあちゃんの家、自分のおじいちゃん、おばあちゃんではなく、全く知らない人ですけれども、地元で受け入れてもらって、そこで島の暮らし、農業体験や漁業体験をやって、いろいろな経験を持ってもらう。そういうことを進めたりしています。

それから経済の面では、日本はこれから人口が減って市場が小さくなるのですけれども、お隣の中国はどんどん大きくなっています。その中国と一緒に成長しようではないかといった事業であるとか、あるいは新しい産業づくり、広島県は自動車、造船、鉄鋼、そういったものが非常に大きいのですけれども、新しい産業、例えば医療機器であるとか、あるいは環境分野の産業、こういった産業をどんどんつくっていきましようということを進めています。

また、いわゆる中山間地域と言われる田舎のほうでは、農業が重要な産業になってくると思います。これから将来を見たときに、日本では農業は大変だということになっています。実際大変です。でも、世界を見ると、今、人口は大爆発していて、食べものはどんどんこれから足りなくなるのです。だからどんどん生産されていく、つまり、農業というのは、世界で見ると非常に大きな成長産業です。それを我々は、今、耕作放棄地という形で失ったりしていますが、それはもったいない。世界を見ると、これは伸びる産業です。しっかりこれを広島県でも取り組んでいきましょう。そういうことを進めています。

あとは、もちろん安心な暮らしとか豊かな地域というものも忘れてはありませ

ん。これにもしっかり取り組んでいます。例えば地域の医療、先ほど申し上げましたけれども、今、地域でお医者さんが足りなくなっています。そのお医者さんをしっかりと確保していく事業。あるいはがん対策日本一。今、死因の一番大きいのがんになっています。広島県はがん対策日本一になろうということで、実は今日、このイベントが終わった後も、「がん検診へ行こうよ」キャンペーンというのがありますので、よかったら残っていただければと思います。

そして、再生可能エネルギー、原発の事故以来非常に大きな問題になっていますエネルギーの問題、ソーラー発電等、メガソーラーあるいは自宅での太陽光発電、こういったものを促進するというのもやっていますし、それから防災対策、去年の大震災を踏まえた防災対策の充実等も進めています。

また、豊かな地域づくりということで、日本の中でも、あるいは世界においても、他にはない広島県の特徴というのは、やはり平和の問題にしっかりと取り組んでいるということがあります。これをもっともっと世界のために役立てていく。それがまた被爆者の皆さん、あるいは被爆で亡くなられた皆さんに対する責務でもありますし、また、広島ができること、広島がやるべきことということで、「国際平和拠点ひろしま」の実現にもしっかりと取り組んでいこうとしております。

最後に、一つだけ申し上げたいことがあります。それは、広島県を変えていく原動力は、県民の皆さん一人ひとりであるということです。先ほど挑戦をやりましょうと言いました。経済だけではありません。福祉、医療、教育、あらゆる分野で挑戦をして、仕組みを変えていかなければいけません。それをやるためには、広島県が持っている強みを使っていこうということがあるわけですが、実際にそれを行うのは、県民の皆さん一人ひとりであるということです。それはなぜか。例えば経済のことで考えると、行政が商売をするわけではないです。新しい産業をつかっていかなければいけない。でも、実際にその産業の担い手は、企業であり、あるいは県民の皆さんです。そこが動かないと、決して新しいものは生まれてこないわけです。あるいは医療でもそうです。どんなに優れた医療政策を立てたとしても、実際の医療現場の皆さん、お医者さんであるとか、看護師さん、保健師さん、いろいろな方がいらっしゃいます。そういった方々が新しいことに取り組んで、はじめて新しい医療というのは実現するわけです。そういう意味で、本当に広島県を変えていく力があるのは県民の皆さんお一人おひとりで、行政はそれをいかに後押ししていくかということが課題だと考えています。

そういう意味で、実は今日3人の皆さん、そのあと5人の皆さんにそれぞれの挑戦を発表していただきますけれども、皆さんの一つ一つの積み重ねが新しい広島県をつかっていくということを是非、御理解いただいて、今日とは違う明日、明日と違う明後日をつかっていくために皆さんのお力をお借りしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、私からの発表は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

(司 会)

湯崎知事，ありがとうございました。皆様とともに地域の強みを生かして挑戦を続けたいと思います。

さて，湯崎知事への質問などの意見交換は，次の事例発表が終了した後に併せて行いたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

事例発表

(司 会)

それでは，これから事例発表に移りたいと思います。湯崎知事にはこの事例発表のコーディネーターを務めていただきます。湯崎知事，どうぞよろしく願いいたします。

(知 事)

それでは，よろしく願いいたします。既に御紹介させていただいていますけれども，今日，事例発表を3名の方にお願ひしております。それぞれの地域で積極的に活動して挑戦を行っていただいている方々です。

はじめに，広島市の若狭利康さんをお願いしたいと思います。少し紹介させていただきますと，若狭さんは，市民と商店街が連携したまちづくりを推進する機関でありますNPO法人「セトラひろしま」の理事長として，また，広島市中央部商店街振興組合連合会の専務理事として，いろいろなイベントの開催や環境美化・緑化活動などを進められて，広島市中央部のまちづくりを支援されています。

また，こうした活動をホームページなどで積極的に情報発信をされておりまして，まちづくりのネットワークを広げる取組も進められています。そういう意味で，地域の活性化に挑戦をいただいています。

発表のテーマは，「広島市中央部の賑わいづくり」です。若狭さん，それでは，よろしく願いいたします。

(事例発表者(若狭))

改めまして，皆さん，こんにちは。ただいま御紹介にあずかりました若狭と申します。本日は湯崎知事，お呼びいただきまして本当にありがとうございます。トップバッターということで緊張しておりますけれども，何とぞよろしく願いいたします。

時間が10分ということで限られておりますので，ちょっと足早の説明になるかもしれま

せん。いつも私が説明すると1時間ぐらいいしゃべってしまうのですけれども、それを10分でやらなければいけないので、今日は足早になるかもしれません。よろしくお願いいたします。

今、御紹介にあずかりましたように、私は商店街とNPOの二足のわらじを履いております。本業は呉服屋でございます。今日、本当は着物を着てこようと思ったのですが、雪が降るのでやめました。店があるのは金座街という商店街です。

御紹介にありましたように、中央部の商店街でいろいろまちづくりをやっております。

まず、中央部の商店街の特徴を簡単に紹介します。広島市にお住まいの方はよく御存知だと思います。ここら辺の商店街、本通りとか、金座街とか、並木通りはもともと広島城の城下町、西国街道に沿って形成された商店街です。平和公園内も商店街でございました。

全国的に見たときの特徴といたしましては、本当なら駅前が再開発されたりするのですが、四つのデパートが集積したこと、そういったことによりまして、中四国の商業地域として発展してきたわけです。一時は紙屋町対八丁堀ということで、1990年までは、ちょうどアルパークとかフジグランができたときはこういった状況で、大型の商業集積はこの2カ所ぐらいでした。それが現在ではこれだけの大型店、デパートとかスーパーができたわけでございます。ということは、今、この中心部の商店街は非常に苦戦しております。御存知のように、今まで四つのデパートと申しましたけれども、そのうちの1店舗の天満屋が3月に撤退されます。これも、要するにこれだけの大型店やスーパーができたおかげで、パイの食い合い、同じものを食い合って食べていけない状況になって、それで撤退ということになったわけでございます。

それで一つ知事にお願ひがあります。これ以上、商業集積は引っ張ってこないでください。こうなると、広島市の中央部は、私たち商店街の人間がやっていますけれども、20年前と比べると、活動している人間は半分以下になっています。商売をやめたり、店がつぶれたりしてやめています。これ以上いなくなると、中央部のまちづくりができなくなります。先ほど知事は人づくりと言われましたけれども、その人がいなくなりますので、なにとぞひとつよろしくお願ひします。

簡単に、中で活動している「中振連」と「セトラひろしま」ということで、中振連というのは長い名前ですが、広島市中央部商店街振興組合連合会というのを略しております。11の商店街と9つの大型店で構成されている連合会でございます。実はこのシャレオも中振連の加盟でございます。あと、本通り、金座街、デパート、福屋、天満屋、三越、そごう、ハンズ、パルコ、そういったところが加盟しております。

セトラひろしまというのは、その商店街と市民で構成されているまちづくり組織でございます。今日も何名か来ていただいていますけれども、本当に商店街とは縁のない市民の方々にも入っていただいている組織でございます。

そのモットーは、都心をより快適にしたい。広島をおもしろくしたい。とにかく広島を

元気にしたい。これが活動のモットーでございます。そしてもう一つ、まちなかから文化発信ということで、セトラひろしま、中振連もいろいろな文化発信をしております。

中振連の主な事業をかいつまんで御説明させていただきます。まず環境整備事業です。駐車場システムとなっています。Pのサイクロマークを車に乗られる方は御覧になっていると思いますが、駐車場に行くと、こういうのが張ってあります。このマークのある駐車場に行くと、無料駐車券がもらえるというシステムを実は中振連でっております。

最近では、都心交通対策実行委員会というのをやっております、より快適な都心交通ということを広島市さんと一緒にやって、共同集配の社会実験とかもやっております。

ここから今回のテーマです。賑わい創出ということで、6月のとうかさのときに「ゆかたできん祭」、8月6日の原爆記念日の「とうろう流し」、それから11月の「えべっさん」、11月のえびす講のときです。その後続く「ドリミネーション」、そしてアリスガーデン、パルコとお好み村の間にある小さいポケットパークですけれども、そこで「アリスガーデンパフォーマンス広場事業」というのをやっています。

それから、子育て支援として、ベビーカーの無料貸出サービスであるとか、こども広場はセトラと一緒にやっております。

あとは情報発信。最近では、旧市民球場跡地の整備に関する提言なども行っております。これが主な事業でございます。

続いてセトラひろしまの事業です。イベント・賑わい事業がメインの事業になります。一番大きいのがアリスガーデンのパフォーマンス広場事業というのをやっております。「インディケット」という、「インディーズ」プラス「マーケット」というイベントをやっております。

それから、緑化・環境では、アリスガーデンと並木通りのグリーン維持管理活動をやっております。これはボランティアの人たちと一緒にやっております。袋町公園、ちょうど中心部の真ん中にある公園ですけれども、その美化活動もやっております。そして、その隣にある袋町小学校の生徒さんたちとコンテナの植栽と一緒にやっております。そして、これはイベントと関係しますが、「おそうじ隊」、ゆかたできん祭、えべっさんのときに、ボランティアの方と一緒におそうじ隊をして清掃活動をやっております。

あと文化振興事業。数年前になりますけれども、岡本太郎の「明日の神話」というのを広島に誘致しようという活動を事務局としてやっておりました。現在もその続きの事業は「明日の広場」という形でやっております。

子育て支援で、いろいろなこども広場をやっておりますと同時に、今、広島市さんと一緒に子育て支援関連の事務局などをやっております。

中振連、商店街でやっている賑わい事業を詳しく御覧いただきます。

まず、「ゆかたできん祭」、これは6月の第1金・土・日曜に行われております。場所は中央通り、袋町公園、シャレオなどです。ここのシャレオでもゆかたできん祭のイベント

をやっております。

御存知のように、とうかさというのは400年近く続いた広島三大祭りの一つでございます。これが数年前、暴走族騒ぎというのがありまして、それで歩行者天国ができなくなりました。一時は開催の危機になりましたが、そのときに広島市と商工会議所、中振連等がお金を出し合いました、何とかこのとうかさを盛り上げようということでイベントを始めたのがこの「ゆかたできん祭」でございます。やっていることは、中央通りの真ん中で踊り、ダンス、太鼓、そういったもの、袋町公園でビアガーデンみたいなもの、本通りのパレード、ファッションショー、そういったもので3日間で35万人の人出がございます。これをフラワーフェスティバルの約20分の1の予算でやっております。フラワーフェスティバルが非常にうらやましい。

そこで、知事に一つお願いがあります。県から一銭もいただいておりません。出してほしいと言っても多分無理でしょうから、是非県警さんに予算を回していただきたい。というのは、このイベントをやるのに、半分以上は警備費用なのです。ホコテンをやるためには警備がかかります。半分ぐらいは警備費で飛んでいきます。なので、是非よろしく願いいたします。

こういった感じで、当日は本当に、特に土曜日は人の行き来が難しいくらいの人出になります。若い方から御家族連れまで楽しんでいただいていると思います。

そして、8月6日の「とうろう流し」、これは皆さん商店街がやっているとお存知でしたか。大体の方は市がやっていると思われていますが、これは原爆の直後から60年近く、商店街の人間がずっとボランティアでやっております。と申しますのも、今、本通りにある店の何軒かはこの中島町、要するに平和公園のあるところで商売をしていて、それが本通りに移ったりしています。そういった関係があるのと、灯籠を売ったりするのにトラブルがあってはいけないということで商店街がやっております。

場所は元安川、原爆ドーム対岸です。自然発生的に始まったものを商店街が手伝うようになりました。色とりどりの灯籠は、安芸門徒の盆灯籠と日本古来の精霊流しの合体だろうと言われておりますが、詳しいことは分かりません。もともと原爆で亡くなられた方の慰霊のために始まったもので、現在でも慰霊で来られている方が半分ぐらいでございますが、最近是世界平和へのピースメッセージといういわれも強くなっております。去年は折り鶴の再生ということで、折り鶴をいただいたものを再生紙にして一部とうろう流しに使わせていただきました。毎年8,000個ぐらいの灯籠が流されております。広島夏の風物詩となっております。こういう感じです。色とりどりの灯籠が川面に流れて非常にきれいです。世界各地から来られて、ピースメッセージを書いていかれます。去年は、残念ながら震災の影響があって外国人の方は非常に少なかったです。

そして、「えべっさん」。実は、えびす講のときに暴走族騒ぎというのがありまして、ホコテンがなくなったのですけれども、これを何とか復活させようということで始まったイ

ベントです。

場所は中央通りとアリスガーデンを使ってやっております。えびす神社が行っているのが400年以上続いた胡子大祭でございまして、その周りの店舗が行うのがえびす講というものです。その総称すべてを「えべっさん」と呼んでおりますが、その「えべっさん」という総称を拝借してイベント名にさせていただいております。

中央通りをホコテンにして、夜神楽と和太鼓をやっております。アリスガーデンでも関連したアリスガーデンのイベントをやっております。これは後ほど説明いたします。

1999年の暴走族騒ぎ、1999年ですのもう12年ぐらいたっていますね。その後、2002年のえびす神社400年祭を機にこのイベントが始められまして、ホコテンが復活いたしました。現在は商店街でやっております。えべっさんの神社のイベントは神社でやっております。夜神楽は、最近は人気がありまして、かなりの方に見ていただいております。

そして、「ドリミネーション」。私も20年ぐらいかかわっていますけれども、昔は、広島ライトアップ事業といいまして、200万円の予算で広島市と商店街で細々やっておりました。太田川の花火大会がなくなりまして、その予算をこっちに回そうということで、今のようないlluminationになりました。提案したのは私たち商店街です。現在は、広島市さんのほうに事務局をお願いしております。御存知のように中央通り一体にいろいろなイルミネーションがあります。商店街でも協賛していろいろなイルミネーションをやっております。再スタートいたしまして、約30万球の電飾で飾られています。広島市の一大ページェントとなっております。

毎年やっております。ただ、やっていることはいいのですけれども、広島市というのは、広島県もそうかな、ちょっとPR不足というのがあります。これも知事にお願いなのですが、是非PRを全国に、観光の目玉で非常にいいと思うので、PRをよろしく願いしたいと思います。

次に、セトラのほうのイベント賑わい事業です。主にやっているのは、アリスガーデンのパフォーマンス広場事業、これを略してアリス・広島で「AH!」と言っております。パルコと一緒に生まれた小さな広場、アリスガーデンを活性化して、若者の居場所づくり、そして観光拠点をつくりあげる目的で始まりました。始めた当時は多少荒れておりまして、イベントをやるのが怖いぐらい、いろいろな人がいらっしやいましたけれども、現状は、10年前とはまるで違います。本当に若い人たち、そして、御家族連れでも楽しめる広場となっております。

原則月1回、第3土曜日にやっております。うちの副理事長がマスクをしてそこに座っています。それと榎さんという琴の奏者なのですけれども、こういった人たちが中心でやっております。あと若い人たちがこれに参加しております。

やっておりますのは、こういう弾き語りです。プロ・アマ問いません。それから、ライブペインティング、そしてアーティストブース、そして今やっておりますアリスファース

トチャンス、アリスガーデンを一つの文化発信として、初めてこういう舞台に立たれる方を応援しようということで、アリスファーストチャンスというのをやっています。ある程度スキルのある人、技術のある人にはストリート魂という、スト魂というイベントでそういう応援をしております。

そのアリスガーデンの広場から生まれた新しいイベントがこの「インディケット」というイベントです。これは「インディーズ」プラス「マーケット」という、要するにインディーズというのは自分たちで自己制作したものを自分たちで売ってもらおう。例えば曲をつくった人は曲を自分で歌ってPRしてそのCDを売る。そういったイベントです。プロモーションとステージをドッキングしたイベントです。手作りの小物をつくった方はそれを売っていただくということです。やっているのはこの人です。石澤さんという、私の友達ですけれども、ライブハウスをやっている人です。この人が言い出しっぺでやっているのですけれども、大変楽しいイベントです。毎年10月にやっております。是非お越しく下さい。

こういう感じで、アリスガーデンにいろいろな模擬店ができたり、ライブ、そして最後は表彰式という感じになっています。

さっきのイベントで活躍していただいているのが「おそうじ隊」です。中央通りが歩行天になったときに、ごみステーションを設置して、ごみの分別を図るとともに、終了時には一斉清掃を行います。えべっさんのときにはこういう感じです。ゆかたできん祭のときにはゆかたを着て一斉清掃をしております。大学生の方、一般市民の方、そして、企業の方、例えばJTさんとか、地元の企業さん、いろいろな企業の方にも協賛していただいて、一緒にお掃除をボランティアでやっていただいております。

中心になっているのはこの人、本山さんです。企業を退職してセトラに入っている方ですけれども、グリーンとかおそうじ隊の面倒を見ていただいております。

そして、文化振興事業でございます。「明日の神話」の誘致にかかわりまして、いろいろな活動をやってまいりました。これはまだ旧市民球場があるときに、明日の神話をパズルにして組み立てるイベントをやったり、フラワーフェスティバルで誘致会のブースをやったりしました。

それから発展いたしまして、2～3年前にエマリュエル・リヴァの広島展という、エマリュエル・リヴァさんというフランスの女優さんが1958年に広島で撮った写真の展覧会をやったりしました。

その誘致会のメンバーが集まりまして今やっておりますのが、文化活動「明日の広場」でございます。市民シンポジウムをやったり、街頭活動をやったり、空き店舗で文化イベントをやったり、こういうことをやっております。

そのメンバーも入りまして、今やっておりますのが、新藤兼人の百年の軌跡という、この4月、5月にやるのですけれども、4月に広島の名誉県民である新藤兼人監督が100歳

になられます。世界最長老監督でございます。この方の映画作品を一挙広島で上映しようというイベントをやっております。セトラが実行委員会の事務局をやっております。是非これも御覧いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

大体以上でございます。やっていることはまだほかにもたくさんあるのですけれども、とにかく広島を元気に、広島をおもしろくということで、一生懸命いろいろな活動をやっております。是非御協力のほどよろしく願いします。どうもありがとうございました。

(知 事)

若狭さん、どうもありがとうございました。今、えべっさんとか、とうかさとか、ドリミネーション、広島の一つの顔というか伝統になっているイベントが、こうやって若狭さんをはじめとするNPOあるいは商店街の皆さんの手でつくられているというのは御存知だったでしょうか。そういう意味ではかなり本格的な活動に取り組んでおられる。これだけたくさんやられると、本業をやっていらっしゃる時間がないのではないかと感じるのですけれども。

(事例発表者 (若狭))

おっしゃるとおりです。

(知 事)

広島市だからこういうことができると思ったら、私は大きな間違いだと思うのです。そうではなくて、若狭さんをはじめとするいろいろな方が出ていらっしゃいましたけれども、そういった方々が、傍観者ではなくて、これを俺たちがやろうという気持ち、言うだけではなくて実際にそれを歩み出してやる。その行動がこういう大きなものにつながっていると思います。決して広島市だからこんなことができるということではないと私は思います。どんな地域でも、やっぱりそれを本当にやろうという思い、それから、思いだけではやっぱりできないです。実際に前に出てやる。そういうことがどんどん新しいこと、あるいはすばらしいことにつながっていくのではないかと。あまりにもすごいので、こんなことはできないと皆さん思われるかもしれませんが、みんながやれば、これは必ずできると私は思います。ですよ。

(事例発表者 (若狭))

はい。本当にみんな手弁当でやっていますので、やる気さえあればできることだろうと思います。ただ、ちょっとお金がかかるので、そこら辺は行政の支援が必要かと思います。

(知 事)

できることはさせていただきます。

(事例発表者(若狭))

よろしくお願いいたします。

(知事)

それでは、もう一度若狭さんに大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

ちなみに、とうろう流しでもお世話になりました。ありがとうございました。

続きましては、府中町の田中宏光さんをお願いいたします。田中さんは「ポパイの会」の会長として、防犯パトロールや子どもの安全に関する様々なイベントの開催に取り組まれています。また、子どもたちの情操教育や健康の増進についても取り組まれていらっしゃいまして、安心な暮らしづくりに挑戦をいただいています。

発表のテーマは、「地域の子どもは地域で見守り、育てよう」です。田中さん、どうぞよろしくお願いいたします。

(事例発表者(田中))

皆さん、こんにちは。府中町で「ポパイの会」の会長をさせていただいています田中宏光です。よろしくお願いいたします。

それと、知事のそばに座っているのが児童センターバンビーズスタッフの中濱さんです。今日はパソコンの操作をお願いしています。今日はこの2人で発表したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さて、「ポパイの会」といっても、皆さん、何をしている団体なのか、御存知ないと思います。最初に、簡単に「ポパイの会」について説明させていただきます。

平成21年11月、府中町に待望の児童センターバンビーズがオープンしました。その中で、地域や保護者とのつながりを強め、協力しながら地域の子どもは地域全体で見守り、育てていくことを目的として、子育てを支えあうことのできる環境や子どもの居場所づくりを目指す仮称「地域子育て支援運営委員会」を立ち上げようと児童センターバンビーズスタッフから地域に声がかかりました。この趣旨に賛同し、集まったメンバーで準備委員会を立ち上げました。その中で、名称が「地域子育て支援運営委員会」では堅苦しいのではないかと意見が出ました。そこで名称をどうしようかと考えているときに、子どもたちを見守り、力強く支えていくのは昔のアニメのポパイみたいだねという発言があり、名称は「ポパイの会」に決定し、平成22年6月に正式に設立しました。

児童センターバンビーズでは、児童や親子が主役になれる行事や、地域の課題に取り組

む事業を行っています。児童センターバンビーズの主催する行事にポパイの会も積極的に参加、協力しています。

それでは、今まで行ってきた活動について紹介します。

この写真は、定例会議の写真です。毎月第4金曜日、19時から児童センターバンビーズで定例会議を開き、児童センターバンビーズとの情報交換を行い、お互いがどのような形で協力しあえるかを話し合っています。私たちが児童センターバンビーズに協力するだけでなく、児童センターバンビーズのスタッフが地域の祭りやとんどなどに参加することもあります。

この写真は、平成22年9月に府中町食生活改善推進協議会などの協力のもと、食育事業の一環として行われた府中町B級グルメ大会の写真です。ポパイの会も、府中町の花である椿をイメージした「つばき焼」を考案し参加して、見事に優勝しました。

この写真は、今年のクリスマスに児童センターバンビーズで行われたクリスマス会です。私たちはサンタ役をして、子どもたちにプレゼントを配りました。

今年の湯崎知事の宝さがしの来訪日には、地域の老人クラブ連合会の皆さんと一緒にもちつき大会を行いました。多くの子もたちと地域の方々、そして児童センターバンビーズとの世代を超えた交流のお手伝いをしました。

ほかに、子育て支援カレッジ事業や児童虐待未然防止のための地域力アップ講座などにも積極的に参加しています。

また、ポパイの会では、見守り巡視活動も行っています。府中町では平成20年、21年度に、国の事業として生徒指導総合連携事業がありました。その中で毎月夜の見守り活動が行われていましたが、平成22年度からなくなると聞き、ポパイの会でできないかと考え、府中町教育委員会に相談しました。府中町教育委員会からは是非とも行ってほしいという返事をいただきました。そこで、府中町南部防犯組合連合会などに協力を呼びかけて、毎月第4金曜日の定例会議の後、20時から約1時間程度、見守り巡視活動を行うことにしました。児童センターバンビーズが府中町の南部に位置することもあり、地元である府中緑ヶ丘中学校区を巡視することにしています。府中緑ヶ丘中学校へ地域の皆さんから寄せられた情報などを聞いて、その場所を中心に巡視活動を行っています。巡視するコースは、巡視前にミーティングを行い、その都度決めていきます。主に少年たちのたまり場になりやすい公園やコンビニなど、また通りから死角になりやすい駐車場を中心に巡視を行い、遊んでいる中高生には早く帰るように声かけを行っています。第1回は平成22年7月23日に行いました。この日はケーブルテレビ「HICAT」の取材も受けました。中国新聞からも取材を受け、巡視活動が掲載されたこともありますので、御覧いただいた方もあると思います。巡視を行っている姿を子どもたちに見せることによって、子どもたちの非行防止に少しでも役に立てればと思い、見守り巡視活動を行っています。巡視のときには、通りかかった住民の方に挨拶を行っています。うれしいことにほとんどの方が挨拶を返してくれます。

中でも「ご苦労様」や「頑張ってください」と言葉をかけてもらえることがとても励みになっています。

この巡視活動を通じて感じることは、同じエリアを巡視しても、立ち退きや新築などにより危険箇所が一月前と変わっていることもあり、継続して行っていくことの大切さを感じています。これからも地域の子どもたちの安全を守るため、巡視活動を続けていきたいと思えます。

新たなチャレンジとして、昨年12月からおしゃべり会を開いています。このおしゃべり会は、これから児童センターバンビーズでどんなことをしてみたいか、障害を持つ親子の交流を目的とした「オリーブの会」や中高生委員会、児童センターバンビーズを利用している地域の方に呼びかけて、気軽に自由におしゃべりできる集まりとして行っています。子どもたちやおしゃべり会に参加できない大人の方にも広くアンケートをとり、それを分類し、何ができそうか、おしゃべりをしました。先日の2月4日に2回目のおしゃべり会を開き、1回目のおしゃべり会をもとに、府中町で子育てをするのに便利な子育て支援マップの制作と子どもたちの自由な遊び場「プレイパーク」づくりを来年度中にやってみようと、より具体的にアイデアを出し合いました。特にプレイパークは、自由な遊び場がほしいという子どもたちの要望が多く、できれば秋までに、遊び場づくりはまちづくりの考えのもと、地域の方にも働きかけて実現していきたいと思えます。先ほどの湯崎知事のチャレンジビジョンの発表にもありましたが、子どもたちは今後の府中町、広島県を支えていく大切な宝です。府中町にも子育て中の多くのお母さん方が引っ越してこられます。その方たちが孤立して悩まれないように、これからもポパイの会は児童センターバンビーズを中心に、地域の各種団体と連携しながら、地域の子どもは地域全体で見守り、育てていく活動を行っていききたいと思えます。本日はありがとうございました。

(知 事)

田中さん、どうもありがとうございました。田中さんは、本当に地域の暮らしに密着した活動を展開していただいています。巡視とか、皆さんお仕事でお忙しい、田中さんも昼間は会社員で働いていらっしゃるわけで、昼間に忙しくて疲れて、でも、夜にそうやって出かけていくのはなかなか大変だと思うのですけれども、やっぱりさっきの若狭さんと同じで、思っているだけ、人任せにしていると、なかなか進まないのですけれども、自分がやろう、大変だけどちょっとやってみよう、ちょっとではなくて本当に大変だと思いますけれども、それが地域の暮らしよさとかを大きく変えていく事例ではないかと思えます。

(事例発表者(田中))

そうですね。それと、ポパイの会のモットーが、先ほどB級グルメ大会もあったのですけれども、参加している私たち大人が、仕事が終わって準備をしたり、当日は休日に出て

やったりとか、「自分たちが楽しめる」を第一前提に、それが周りの子どもたちや地域の方々を巻き込んでよい潤滑剤になるのではないかと考えてやっています。

(知 事)

都会なので、何かと地域との関係が薄いということがあると思いますけれども、実はそれを薄くするか、濃くするかというのも地元の住民の皆さん次第だということがよく分かる事例だと思いました。それでは、田中さんに改めて大きな拍手をお願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、最後の事例発表になります。熊野町の織田寛治さんです。織田さんは、熊野町川角地区の自治会長として、高齢者サロンの運営や子ども会活動の支援をされていらっしゃいます。また、地元のシンボルの山であります「三石山」の遊歩道の整備などに、プロジェクト三石山のリーダーとして積極的に取り組んでいらっしゃいまして、豊かな地域づくりに挑戦をいただいています。

発表のテーマは「シニアボランティアの手で、その山が輝く宝の山に」です。それでは織田さん、よろしくお祈りいたします。

(事例発表者 (織田))

ただいま紹介いただきました熊野町の織田と申します。よろしくお祈りいたします。

今、ここにありますあの山、これが私たちが活動した場所です。これは、熊野町の南の端のほうにある山ですが、この熊野町は、先般、なでしこジャパンが優勝して、国民栄誉賞の副賞で化粧筆をもらったということで、これが熊野町製だったということで、多くの方が御存知と思います。熊野町は、広島市と東広島市、もう一つ呉市、この大きな三つの市のちょうどトライアングルの真ん中にあるまちです。

この熊野町は、30～40年前まではわずか1万人足らずの小さな田舎町だったのですが、そんな大都市に囲まれている関係で、近隣の広島市だとか、大都市がいろいろ人を集めることになりましたので、熊野町も住宅地が増えてまいりました。いわゆる住宅開発です。御案内のように、ここにありますように、この田んぼ一体は市街化調整区域になっていて、田んぼや畑で、ここに家を建てることのできない地区です。ところが、これを除くこの周囲は、従来山だったところは住宅地として開発されました。住宅地に熊野町にお住まいではない方がたくさん入って来えたのです。そうすると、どうなるか。お隣に住まっている人は、長年住まっていた人ではないのです。顔も知らなければ、ふるさとは別々という方ばかりです。「ふるさと」という言葉が最近、とみに去年あたりは絆という言葉と一緒に使われておりますが、ふるさとはいいものですよ。「うさぎおいしかの山」だけではありません。いろいろな共通分母があつていいのではないかと思います。広島弁の方言も

いいでしょうし、学校の先生のあだ名もそれかもしれない。一緒に仕事をした。一緒に手を組んで何をしたとか、同一性があるのがふるさとだと思います。

ここの地区に、私が今かかわっております川角という自治会があります。かつては 100 世帯足らずの小さな村でしたが、今はそれが 1,000 所帯になって、3,000 人の人口を要しております。ということは、ほとんどの方が川角生まれではない。よその地区から移住なさった方々だということです。ということは、お隣さんも、その先の人も、ほとんど前は知らない、方言も違う、こんな方々ばかりなのです。そこで、その方々が本当に肩を寄せ合って力になれるかという、なかなかないのです。現実問題として、お勤めの方々は、サラリーマンが大半ですけれども、定年退職をして年金をもらいだすまでは、朝、会社に出て、夕刻、会社から帰ってまいります。その何時間かは会社が管理してくれるわけですが、定年退職してしまったら、この管理をしてくれる場所がなくなるのです。お家になります。お家になるのですが、そこには奥さんがいるかもしれません。お家になっても、毎日行くところはないのです。ところが、奥さんは買い物だとか、あるいは子育てだとか、ごみ出しだとか、いろいろなことで近所とのかかわりはあります。この間もこんなことを聞きました。5軒先の住んでいる人の顔はよく知っている。名前も知っているのだけれども、あの人とまだ会話を交わしたことがない。あの人、この間、定年になったらしいと、こんなことです。おつき合いのない方がたくさんいらっしゃる。そこにふるさとだとか、絆を求めるのは難しい。だけど、ここの地区に住まっている子どもたちのふるすとはこの川角地区、熊野町なのです。そして、今から 20 年、30 年、終の棲家としてここを求めてきた人たちも、ここにお住まいになるでしょう。そうすると、ここに住んでよかったと、さっき知事のお話にもありましたが、熊野町に住んでよかった。川角に住んでよかったと言えるような場所にしたいというのが、これが自治会長として私の務めではないかと思いました。

それで、自治会としては、例えば老人会だとか、子ども会だとか、女性会という組織だとか、それらに関連する社会福祉協議会だとか、いろいろな組織があって、それらを盛り上げていくことはできておりますけれども、それらに参加をようしない人がいるのです。さっき言った 65 歳まで会社が管理してくれていたけれども、今日から誰とも接触がなくなってしまった。そんな人がたくさんいらっしゃる。それを何とか引っ張りだせないか。同じふるさとの、ここで子どもたちの子育てをしていく、そんな力になれないだろうかということで、宝さがしのその宝にこの山をしたわけです。

この山の上に三つの大きな岩があるのです。名前の由来はそこから来ていると思いますが、熊野町の端にある三石山といいます。これは江戸時代の地図なのですけれども、熊野村というのがここに 있습니다。私が住んでいる川角はここです。平谷、押込、苗代、栃原、焼山。熊野というのは盆地でできています。500~600m の山に囲まれた盆地です。これは古いですから、賀茂郡というのは、今は大半が東広島市になっています。こっちが呉

市です。こっちが広島市です。その山に囲まれた盆地の中にあるこの村々を江戸時代、熊野七郷と言っておりました。川角のここにある三石山という山の頂に登りますと、この熊野七郷が一望に見渡せるのです。こんな山はそんじょそこらにないです。山に登って、展望のいいところはたくさんあります。だけど、後ろに岩があつたり、後ろに木が生えていたり、というようなことで、一面は見えても、反対側まで見えるというのはめったにない。ところが、ここは幸いに見えるのです。そして、比高、我々が住まっているところから 230m 頂にはそれがあるのです。230m はそんなに高い山ではないです。南区仁保町に黄金山がありますね。あれが海拔 200m です。ですから、あれよりちょっと高いだけです。ですから、子どもでも、高齢者でも上られる山です。それで、今、一部の方にはお渡ししましたが、こんなパンフレットができたばかりです。これからそこを拠点にした活動について、簡単にお話しさせていただきます。

山というのは、マツタケが生えるから山に行くだとか、あるいは家庭で飯を炊いたり、風呂を沸かししたりすることになると、そこで薪が要ります。そんな関係で、山には多くの人が常に入っていました。ですから、そこには道がありました。ところが、最近では電気、ガスでしょう。それからマツタケというのはもう生えなくなりましたから、山に入っていく人が誰もいないのです。そうなりますと、自然にあった道がなくなったのです。せっかくいい道があったのに、そこに赴くすべがなくなった。私は幼少のころにその山の頂に上がって、360 度を眺めて、いい場所だな。これを多くの人に知ってもらいたいという思いがあったものですから、何とかしたいと思っているときに、熊野町のまちづくり協働推進事業助成団体の募集があったのです。これに手を挙げまして、そして、まず始めたことは、ここに道をつけようじゃないか。山に登る道をつくりました。そして、上がっていただくのなら、上がってもらった人に、周囲に見渡せる山だとか、まちだとか、今はまちになっておりますが、昔は村です。その村々の歴史だとか、地域の、あるいは太古からの歴史なども紹介して、知ってもらったらどうだろうか。これが先ほど言いましたふるさとというものは、知るといふことの共通分母を持つことだという認識があつて、みんなにそこに登ってもらったら、そんなことが分かるのではないかということで、登ってもらう道をつくりました。

それで、できるだけ皆さんに負担のないようにということで、こんなことをしました。山に登るのはこっちの方向ですよという方向指示をつくりました。あと何百メートルと、百メートル単位でこの印をしました。そうすると、最初は 1400m だと思つていても、あと 800m か、あと 200m かと、山に登るときの励みにもなるということもありましょう。だけど、もう一つ注意をしなければならないこともあります。マムシが出ます。あるいは山からハチが出ます。お薦めしたのなら、これも注意するのがすべじやなかろうかということです。それに絡んで、山に登るのに三つのルートを開発しました。富士山の場合は、御殿場方面からだとか、富士五湖方面だとかいろいろありますけれども、この小さな山に三つ

つくったのは、それぞれ、その人の体力なり、あるいはそれぞれの目的によって好みがありますので、これを三つにしました。

そして、こちらのほうは、歴史を書いたり、案内をいたしました。

ここは熊野中学校にお願いしまして、子どもにここから見える山だとかまちを書いていただきました。ベンチをつくりました。このベンチも、ほとんど経済的にはゼロで進めています。ここの鉄も、熊野町から道路の横にあるガードレールの廃材をもらってきました。

これも、頂にあるベンチです。ベンチと言うより、パノラマデッキと名前を付けました。名前も貴重な一つだと思います。

熊野高校は県立ですが、美術部を含む芸術類型というのを持ったのは熊野高校だけです。これは、熊野高校の美術部の子が書いてくれた景色です。

これは、山頂の岩ですが、ここに地域を説明しております。パンフレットの中に紹介していることです。

そういう活動をしながら、子どもが上ったりする支援をしております。

また、これは、植物の名前を書いて、全部で70種類を越える木の名前を書いて、教育できるよすがにしようと思っています。

これは中学生が上がったところです。

これは小学校1年生が上がったところです。

ついこの間ですが、小学校2年生です。算数の九九は小学校で習うんだそうですね。昔は、私たちのころは、黒板が向こうにあって、みんな一方通行で先生のほうを向いていたけれども、今は一つのグループが4名で構成されて、グループ活動という教育がされている。そして、九九をどのグループも全部がマスターして、全員がそろったら山登りに連れて行ってやるとひっかかまして、この間、12月15日に、この2年生の子どもたち全員を連れていきました。この子どもたちは、山の上に登ったら、やっほーと下のまちに呼びかけたりして、大変楽しんでおりましたし、子どもたちのふるさとづくりにもなったと思います。

工事をしたりします。山の道をつくったり、さっきのベンチをつくったり、いろいろありますが、そんなときは、常じゃないです。たまには、ピザパイをつくって、ビールでやります。熊野町が設営したピザ窯があるのです。こっちにはバーベキューの窯があったりします。たまたまこの山のふもとに熊野町の町民グラウンドだとか体育館だとかあるものですから、自動車もそこまで行ける。そこから30分もあれば山の頂に届くという環境にあるものですから、こうしてやっていったら、今、多くの方に参画をいただいて、山に登っていただいております。おかげで我々これに取り組んだ数十名、今のように陰から支援をしてくれる人たちを入れますと100名を余る人・グループが関与してくれております。この山に登った人は、ああよかったと言って、さっきの共同のものを持ってくれたのではなかろうかと思っています。

こんなところで大方の説明を終わらせていただきます。御清聴ありがとうございました。

(知 事)

織田さん、ありがとうございました。何もしなければ何もない、ただの山。ところが、道をつけて、みんなが登れるようになると、ふるさとの宝になる。ただの山が宝に変わる。それを織田さんが実現したということで、これも、言い出しっぺで大変だったと思いますけれども、結果としては、言うだけではなくて、やってみると100人を超える人が最終的には手伝ってくれて、そして、こういううまいピザとビールも飲めるということにつながっていったということではないかと思います。新しい宝を持った熊野町の子どもたちはとても幸せではないかと思います。そんなことを実現していただいた織田さんに、また大きな拍手をお願いいたします。どうもありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。

意見交換

(司 会)

それでは、湯崎知事の「ひろしま未来チャレンジビジョン」の発表と、3人の皆様の取組の発表に関しまして、質問と意見交換を行いたいと思います。

なお、本日の懇談会は、地域の取組事例をお聞きし、この地域を中心とした新たな広島県づくりに向けて、皆さんとともに考えようというものです。このため、この質問と意見交換は、この趣旨と、これまでの発表を踏まえた内容のものに限らせていただきますので、よろしく御協力をお願いいたします。

また、質問に際しましては、最初にお住まい、またはお勤めの市町名、お名前、どなたに対する御質問か、御意見かをお伝え願いたいと思います。

それでは、どなたか御意見、御質問ございませんでしょうか。ないですか。せっかくの機会ですので、知事に御質問とか。

(知 事)

最初の人なかなか手を挙げにくいですね。1人挙げると、何人か連続して挙がるのですけれども、どなたか勇気をふるって。

(司 会)

若い方もたくさん来ておられますけれども、ありませんか。はい。

(質問者A)

安佐北区のAといいます。A(苗字)は広島県で私1人です。はじめてこういうことで参加させていただきまして、知事の思っていることに非常に感銘いたしました。特に感じたところは、挑戦ということです。私は、娘に挑戦という字を書いてもらって、応接間のテレビの横に張っております。私は昭和一桁生まれで、77歳になります。それをもって挑戦ということの日ごろやっております。

その中で3点ほど、今挑戦していることを言ってみます。もう一つは、熊野の方が挑戦しておられますね。また、参考になれば、私の友人とか、あとで発表させていただきます。

その中では、全国にない公園を、私有地で、ここの弓状の10倍ぐらいあるところで、2人で公園をつくっております。私有地でありますので、私の友達が、ちょっとした縁で、泊まり込みで月に1週間ぐらいは、今、始めてから3年で、毎年ブルで、2週間ぐらい入れよったのですけれども、5年から10年先のことです。それが一つの挑戦です。

私たち出身は四国なのですけれども、広島県で、もう一つの挑戦は地域の活性化ということ。ものづくり。いろいろな団体があります。それをまとめて、NPOで立ち上げてくれているのですが、市長さんにも面会に行ったんですけれども、ちょうどできなくて、総務課長といろいろ話したこともあります。ものづくりというもので、私は広島県を東西南北に分けて、今は三つのところ、北、南、東広島、そこでものづくりの展示・即売会を、会員は50名ぐらいなのですけれども、若い人は20歳ぐらいから年寄りの人は80歳ぐらいまで、女の方であればビーズとか小物、男の方は木工品とか陶芸、ガラス工芸は作家さんの集まりです。市長にも大変だと言っているいろいろ、場所を借りるにしても結構お金がかかります。余っているところはあると思うのですが、ここも挑戦に来たことがあります、お金の面で合わないからやめました。そういう挑戦ということ。です。

熊野の方の話を聞きまして、私はアイデアが浮かんだのですけれども、参考になればあとで面会させていただきたいと思います。山の稜線がありますね。この稜線に突起のあるところと凹凸があります。こういうところを音符に変えるという活動をしている友達が会員におります。中国新聞にも載りました。今、本人が手がけているのは宮島の山です。あの稜線を音符に変えるわけです。この熊野の稜線を音符に変えて、作詞か何かつくりまして、その地域のふるさと、そういう歌を歌えればなじみができるのではないかと思います。よければその友達を紹介して、音符で曲とか詩をつくって、それをお互いに歌えばまたなじみが多くなるのではないかと、聞きながら感じたわけです。

最後に、知事の瀬戸内海構想ですが、私は非常に感銘を受けまして、私どもは先がないのですけれども、50年先には、広島県とか中国とかではなく、世界の瀬戸内海という大構想のもとに、ますます御尽力いただければ幸いです。以上です。

(司 会)

ありがとうございました。幾つか意見とか質問があったのですが、知事のほうからまず。

(知 事)

今、御質問というか、私の挑戦を飛び入りでおっしゃっていただいたような形になりまして、そういう意味では、それぞれいろいろなところに、いろいろな地域で、またいろいろな年代の方で挑戦されている方がいると思います。先ほどプレゼンテーションの中で、県民のお一人おひとりが原動力だと申し上げました。一人ひとりにそれぞれの挑戦があると私は思います。比治山に登るとエベレストに登るお話をしましたけれども、比治山に登ることが挑戦の方もいらっしゃるわけです。けれども、一人ひとりがそれぞれのできる挑戦、それぞれの挑戦を一人ひとりがやっていくことが最終的には大きな力になっていくのではないかと思います。今、新しい公園づくり、日本にほかにない公園づくりであるとか、あるいはものづくり、いろいろなことを集めて、それを展示したり販売したりするというをやっているということでしたけれども、皆さんがそうやって取り組んでいただくことによって、よりよい広島県ができるということを実感させていただきました。どうもありがとうございました。

(司 会)

会場からの挑戦の発表、ありがとうございました。

時間の関係がございますので、あともう1人、御質問なり御意見なりを伺いたいと思います。どうぞ。

(質問者B)

西区在住のBと申します。知事がお仕事をされている中で、広島だけじゃないかもしれませんが、私は、各分野、各団体が連携するのが苦手だなと思うことがよくあるのですけれども、その辺、悩んだりすることもよくあるのですが、もし何か知事のお考えでヒントとか何かお知恵があったら是非拝借したいと思って御質問させていただきました。よろしく願いいたします。

(知 事)

ありがとうございます。今、連携のお話をいただきました。ネットワークをつくっていくのはなかなか勇気が要るといえるか、めんどくさいこと、やらなければいけないこと、そういうことだと思います。さっき田中さんのテーマの中で、おしゃべり会というのをやっていただいて、いろいろな地域の方に集まってもらって、そこでアイデアを出して、そし

て、今度プレイパークができるということなのですけれども、いろいろな切り口はあると思います。地域の中で活動されている方だとか、あるいは同じような活動をされている方だとか、そういう横のつながりが広がると本当に素晴らしいと思います。私はどんな活動でも一緒に、とにかく声をかけてみる。そういうことに尽きるのではないかな。おしゃべり会も、おしゃべり会をやってみると言ったら、そうやって集まる。実は宝さがしでも、同じような活動をされている方はたくさんいらっしゃるのです。あるいは、その地域の活動をそれぞれ知らなかったりするのです。宝さがしをやっているうちに、ああ、そんなことをやっているんですかということにつながって、それが発展することもあります。そういう意味で、恥ずかしがらず、めんどくさがらず、何か大きなことを最初からねらわず、ちょっとでも声をかけていくということが広がっていくきっかけになるのではないかと思います。

ちなみに、一つ宣伝をさせていただくと、広島県で、こういったいろいろな挑戦をされている方々に参加をいただいています「地域の宝ネットワーク」というのを立ち上げています。これはインターネットを活用して、いろいろな活動をされている方に参加をいただいで、意見交換とか情報交換とか、あとフェイスブックでもやっています。そういったところも使っていただければ大変ありがたいと思います。どうもありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。今、お手元にお配りしております資料に、地域の宝ネットワークの資料もありますので、これを機会に是非御参加ください。

(質問者C)

鞆の浦の景観をなくさんようにしてください。これは私の意見です。そうせんと、宝をなくします。よろしくお願いします。

(知 事)

鞆の浦については、今、いろいろと住民の皆さんのお話を踏まえて、また、福山市とも協議をしておりますので、またその行方を御覧いただければと思います。

挑戦発表

(司 会)

時間が押しておりますので、次の「私の挑戦」の発表にまいりたいと思います。よろし

くお願いいたします。

(知 事)

それでは、私がここからまたやらさせていただきます。「私の挑戦」というのをいろいろ募集しております、今日は合計で5名の方に発表していただくことになりました。海田町から1名、坂町から1名、高校生が2名、中学生1名という発表になっています。

今日、ここで皆様に発表いただきます地域や学校で取り組まれているいろいろな挑戦が、またお聞きいただくと分かると思うのですけれども、この挑戦が明日の元気な広島県づくりにつながっていくと思います。それでは、元気よく発表をお願いしたいと思います。

はじめは、海田町の石橋京子さんをお願いいたします。石橋さんは「まちづくり研究会 ほっとアニメ海田」の代表として、地元中学校と連携をして、地域おこしや環境保全の取組をされています。

また、昨年度の海田町で開催された宝さがしをきっかけに、この2月26日に設立を準備されています「海田住民活動ネットワーク」、これもネットワークですね。通称「カイジューウねっと」の代表もされています。

テーマは、「繋がる そして助け合おう」です。よろしくお願いいたします。

(挑戦発表者(石橋))

こんにちは。私は安芸郡海田町から参りました石橋京子と申します。安芸郡海田町は、広島湾に面した美しい瀬野川を持つまちです。海田町の面積は約14km²です。外国の方を約1,000人も含んでいて、人口は約3万人です。海田のまちは、こんなまちです。山陽本線と呉線の分岐点でもあります。西国街道があつたり、さっき話をしました瀬野川、山や川に囲まれて、とても美しいまちです。

この利便性を生かそうと、助け合えるまちづくりというのを考えてみました。そのきっかけは、さっき湯崎知事がお話ししてくださったように2010年の宝さがし、この出会いがあったからなのです。知事はおっしゃいました。海田町は、たくさんの方がボランティアをされているのに、つながっていないのですね。ああ、そうだ。繋がる。そして、助け合おう。そのことをテーマに、みんなで考えました。

1年間考えて、単体ではなく、ネットワークをすることで事業の拡大や知恵が豊富になること。たくさんの方のメリットがあるねと話しています。

例えば、市の開催をしたとします。いつ、どこで、誰が何をするのか。それは予算もかかります。利益も出るでしょう。こういう体験が私たち住民の力にもなります。それから、私たちは仲間をつくることで、人の財産と書く「人財」を持っています。それから、新しいものだけではなく、古い歴史も力いっぱい活用して、新しいことにもチャレンジできるようなネットワークづくりをしたいと思います。

先ほど先に話してしまわれました。2月26日、海田町住民活動ネットワークが設立総会を迎えます。ちょっと見てください。これがチラシです。もう一つ、海田のK、住民のJ、ネットワーク、ほら、こんなのがありました。以上です。

(知 事)

ありがとうございました。先にばらしてしまいましたね。すみませんでした。黙っておかなければいけなかった。

(挑戦発表者(石橋))

そうなんです。でも、見てください。皆さん、海田のKとJと、見えますか。

(知 事)

まさにKとJのかいじゅうですね。歯が2本。

(挑戦発表者(石橋))

よろしく願いいたします。

(知 事)

ありがとうございました。ネットワークづくり、本当に力を合わせれば、さらに大きくなっていく。大きな紙の裏にガムテープが張って補強がしてあるのですけれども、あれもきっとみんなの知恵を合わせて、ああいうことが出てきたのではないかと思います。本当に力を合わせて、ますます元気な地域づくりに励んでください。それでは、もう一度大きな拍手をお願いします。

続きまして、坂町の林昭治さんをお願いします。林さんは、昨年12月、坂町の無形文化財に指定されました雅楽演奏の団体「坂雅正会」の代表として、日本古来の雅楽の継承に取り組んでいらっしゃいます。また、坂町文化協会会長として、幅広く地域の文化や伝統芸能の保存や継承に取り組まれていらっしゃいます。

テーマは、「文化芸能で地域に活力を」です。よろしく願いいたします。

(挑戦発表者(林))

皆さん、こんにちは。今、御紹介いただきました坂町から来ました林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私がお話しするのは、本当の挑戦になるかどうか分からない、本当に些細なことだと思います。実は、今も御紹介にありましたけれども、私は今、坂町文化協会の会長を仰せつ

かっております。そのような関係で、文化芸能の方々とお会いすることが多くございます。私も、今の紹介で全部知事が言われましたけれども、明治から受け継いでおります日本古来の雅楽、これの会長をしております。今年でちょうど120年になります。それと、またこれもずっと古い、江戸時代から地元で伝わっております獅子舞保存会の会長もしております。

私も含め、いろいろな悩みがございます。その中で一番大きな問題は、継承問題でございます。後継者の問題でございます。代表者の方にお会いしますと、皆さん、言われます。私の後はどうなるんだろうか。地元のあの踊りはどうなるんだろうか。そのようなことをよく聞きます。私たち坂町にも、古くからの民謡や民舞がございます。しかし、今、それが廃れようとしております。教える人がいない。教わろうとする人もいない。そして、教える場所もない。時間もない。もうやめてしまおう。そのような声が聞こえてきます。

それで、これではいけん。何とかせにゃいけん。どこかで聞いたことがあります、そういうふうなことで、実は一昨年、坂町の議会でも取り上げていただきました。昨年、私の名前のもとに、坂町全域の自治会の会長さん、それから文化関係の部長さん、それと民謡をやっておられます代表者の方々、それから私たちの文化協会の役員、とにかく関係する人をピックアップしまして、一堂に集めて、この問題をどうしていこうか。この私たちの宝の文化芸能を盛り上げていこうじゃないかということで案内しましたところ、ありがたいことに100%近い人が集まってくれました。林、今日は何なら、どうして集めたんなら、という方が多かったですけれども、それでも集まっていたいただきました。そして、その席で私の思いを言いまして、この私たちの宝をなくしてはいけん。みんなで力を合わせて、意見を出し合ってやっていきましょうということを話させていただきました。実は私たち坂町は、一昨年でしたか、町政施行60周年を迎えました。これを記念に、町のほうで坂町歌、歌です。それと、坂町音頭、踊りをつくっていただきました。そのできたてほやほやの坂町音頭と、それから江戸時代から続いております、今、廃れようとしている盆踊り、地踊りと言っておりますけれども、この二つを併せて講習会を開こう。このように皆さんに提案しました。坂町には3地区あるのですが、講習会を募集しましたところ、たくさんの人たちが、小さい子どもから年配の方々まで集まっていたいただきました。おかげで去年の盆踊りとかイベント等で、たくさんの人たちが楽しく踊っている姿を拝見させていただきました。大変うれしゅうございました。

私は常々、文化芸能は腹は太らん。しかし、私たちが生きていく上で大変大切なビタミンだ。このように言っております。この大切なビタミンである文化芸能を少しでも盛り立てて、まち全体が楽しく、活発なまちになっていくようにしていこうということで、これからもチャレンジしていこうと思っております。以上でございます。ありがとうございました。

(知 事)

林さん、どうもありがとうございました。文化芸能はビタミン。ビタミンは、主に野菜からとりますけれども、野菜というのは、育てるのに手がかかります。文化芸能も、それを継承していく人、あるいは育てる人、たくさんの人の手がかかると思います。それを担っていらっしゃる林さんに、もう一度大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

次に、高校生、中学生の発表をお願いしたいと思います。

まず、県立広島工業高等学校2年生の沢田翔一さんです。沢田さんは、高校生ものづくりコンテスト中国地区大会の旋盤作業部門で1位となって、全国大会へも出場されています。

テーマは、「高校生ものづくりコンテスト全国大会への挑戦」です。よろしくお願ひします。

(挑戦発表者(沢田))

僕は、県立広島工業高等学校機械科2年、沢田翔一です。よろしくお願ひします。

僕がチャレンジしたいことは、全国工業高等学校長協会主催の高校生ものづくりコンテスト全国大会旋盤作業部門に出場し、優勝することです。前回、全国大会に出場することはできましたが、優勝することはできず、とても悔しい思いをしました。全国大会では、広島県大会や中国地区大会とは違った会場の雰囲気にもまれてしまい、いつものように楽しむことができず、練習どおりに課題を製作することができなかったことが原因だと思います。

この目標を達成するために、技能向上のための練習や、どんな状況でも平常心で作業することができる精神力を鍛えていきたいです。

また、僕は高校を卒業後、就職を希望しています。大好きなものづくりをするため、そして、そのものづくりを通して社会貢献していきたいからです。具体的には、技能五輪への挑戦を通して、自分の技能の向上や自分の能力の限界に挑戦してみたいです。そこで培った能力を生かして社会貢献していきたいです。

与えられた仕事をきちんとこなしていき、校長先生がいつも言われている当たり前のことをばかにしないでちゃんとするという改善のABCを実践していくことで、チャンスなものにし、この目標をかなえていきたいです。

以上が、僕のチャレンジしたいことです。ありがとうございました。

(知 事)

沢田くん、ありがとうございました。全国ものづくりコンテストで優勝するという大き

な目標を発表していただきました。本当にすばらしいと思います。また、しっかりとした将来の夢も見据えていらっしゃるって、今日、この場で平常心をもってしゃべっていただいたので、きっと今度は優勝できるのではないかと思います。皆さん、もう一度大きな拍手とエールをお願いします。

次は、県立五日市高等学校3年生の村上詩織さんです。村上さんの所属する五日市高等学校の放送部は、広島県放送文化コンクールのビデオメッセージ部門で最優秀賞を授賞されております。村上さんは、この放送部の中心として活動されているということです。

テーマは、「被爆体験を受け継ぐ」です。よろしくお願いします。

（挑戦発表者（村上））

五日市高校3年生の村上詩織です。よろしくお願いします。

私は、3年間放送部で活動しました。去年は、「黒い雨が降った」というテレビ番組をつくりました。それは、私の祖父が黒い雨の染みがついた掛け軸を原爆資料館に寄贈したことがきっかけでした。

原爆が落とされたとき、私の祖父は中学4年生で、祖父の弟は同じ中学の1年生でした。祖父のけがは軽かったのですが、弟は今の平和公園のすぐそばで被爆して、全身大やけどを負いました。

祖父は、夜になってから、まだ息のある弟を見つけて、家に連れて帰りました。でも、祖父の家は原爆で屋根が壊れて、そこに黒い雨が降り、畳も布団もびしょぬれだったそうです。

次の日、弟は亡くなりました。原爆資料館には、弟のぼろぼろの制服が寄贈してあります。

そして、去年の1月に、黒い雨がニュースになったので、何か役に立てたらと、黒い雨が染みついた掛け軸を寄贈したそうです。

祖父は、私が小さいころから自分の原爆の体験や弟のことをよく話してくれました。私は、改めて祖父の話聞いて、今度は祖父の代わりに私が原爆で起きたことを伝えていかなければという使命感を感じました。その気持ちを私たちのつくったテレビ番組の中で話しました。

昨年7月、「黒い雨が降った」の番組はNHKの放送コンテストで準優勝することができました。審査員の方からは、使命感を共有することができたというコメントをいただいて、とてもうれしかったです。

昨年3月11日、東北で大震災が起きて、原発事故で多くの人々が避難し、今も故郷を離れて生活する日々が続いています。放射能のため作物がつかれない地域もたくさんあります。放射能が大きな問題になったので、原爆についてもう一度もっと多くの人に知ってもらえ

たらと思います。改めて知るところから、これから大人になっていく私たちがやるべきことが見えてくると思います。

私は、これからも原爆について話を聞き、記録し続け、伝えていきたいと思います。終わります。

(知 事)

村上さん、ありがとうございました。広島の我々が次の世代、またその次の世代に、村上さんもなっていくと思うのですけれども、しっかりとそれを伝えていかなければいけない。その固い決意をお話しいただきました。県もこの平和活動に力を入れていきたいと思っています。もう一度村上さんに大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

「黒い雨が降った」という今のビデオですね。いただきました。ありがとうございました。

それでは、次は最後の発表になります。広島市の長東中学校3年生の佐竹良樹さんです。長東中学校では、学校をあげて地域のボランティア活動に取り組んでいらっしゃるということです。佐竹さんは、8月6日の平和記念式典に参加された外国人へ平和のメッセージカードを配布するピースボランティア活動に、その中心として取り組まれました。

テーマは、「世界へ向けて『平和発信』の取組」です。よろしくをお願いします。

(挑戦発表者(佐竹))

長東中学校3年生の佐竹です。よろしくをお願いします。

私は、「世界に向けて『平和発信』の取組」について紹介します。

私が通っている長東中学校では、日ごろから地域との交流を大切にしています。それは、地域の人たちと一緒に活動することで、学校だけでは学べないいろいろなことを学ぶことができるからです。そして、その交流が私たちにとって本当に意味あるものになっているのは、ボランティアとして自らが主体的に参加しているからです。

長東中学校では、昨年度から国際平和文化都市である広島市の学校として、8月6日に平和公園を訪れている外国の方々に生徒の手で作成した英語のピースメッセージカードを配布するピースボランティア活動を実施しています。6月にピースボランティアの参加募集を行い、51人の生徒が集まりました。私もその51人の生徒の中の1人で、私は、今年度長東中学校の生徒会長を務めさせていただきましたが、生徒会のリーダーとして、この活動に積極的に参加したいという思いと、個人的には広島市から世界へ私たちの平和の思いを発信していきたいという思いでこの活動に参加しました。6月から8月の2ヵ月間にわたって、英会話練習やメッセージカードづくりなど準備に取り組みました。メッセージカードには、長東中学校の3年生が平和への思い、願いを込めて作成した長東中学校独自

の平和宣言をつくりました。8月6日当日は160部のメッセージカードを外国の方々に英語を使って配布し、この様子はテレビニュースでも放映されました。

国際平和文化都市広島市民の一員として、全国、全世界に私たちの平和に対する思いや願いを発信するとともに、日本国内から全世界に視野を広げることができた活動でした。

今年度のピースボランティア活動をはじめとする平和教育に関する取組が、このように平和へ向けて平和発信の取組としてまとめられました。

最後に、私は長束中学校の一員として、ピースボランティア活動に参加して、生徒会長としてみんなの平和に対する思いをまとめることの難しさ、または思いを知ることの大切さを知ることができました。個人的には、私たちの平和に対する思いを伝えることができ、本当に誇りに思っています。

これからも平和についてはもちろん、いろいろなことについて自分の思いや周りの人、そして、より多くの人に伝えていきたいと思います。御清聴ありがとうございました。

(知 事)

佐竹くん、ありがとうございました。僕からみると、とても中学3年生には見えない、しっかりとした佐竹くん、若い世代のみんなのこういった活動が世界に誇れる広島につながっていく。また世界平和に少しでも影響を与えていくのではないかと思います。もう一度佐竹くんに大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

いただきました。ありがとうございます。

閉 会

(知 事)

以上で、今日のプログラムはすべて終了です。

今日発表していただきました皆さん、本当にありがとうございました。また、20分ほど実はもう既に時間を延長しているのですけれども、最後までおつき合いいただいた皆様、本当にありがとうございました。

私が途中プレゼンテーションで広島県を変えていくのは県民の皆さんお一人おひとりだと申し上げました。そして、今日の発表をお聞きになると、それがどういう意味かお分かりになりますというふうに申し上げました。きっと今日の皆さんの発表を聞いていただいて、その意味が御理解いただけたのではないかと思います。一人ひとりの活動が、一つ一つの違いをつくっていく。その積み重ねが大きな違いを生んでいく。これまでと同じ当たり前のことをみんながやっていたのでは変わらない。でも、1人が少し違うことをする。少し難しいことをする。少し頑張ってみる。そのことによって、本当に素晴らしい広島県

が生まれていく。そういうふうになると思っています。

どうか今日のこの会をきっかけに、この未来チャレンジビジョン、あるいは未来チャレンジに対する御理解が深まって、皆さんの日ごろの活動、職場でも、地域でも、あるいは家庭でも結構です。少しずつまた新たなことに挑戦をしていただければと思います。本日は本当にどうもありがとうございました。

時間が押している中ですが、最後に一つだけ、県では安心な暮らしづくりの中でがん対策日本一を進めていますというのを申し上げました。実は、この中で一番大事なことは検診を受けて、早く見つけることなのです。がん検診を受けて、早く見つける。対象年齢になる方がたくさんいらっしゃいます。皆さん、是非受けてください。

この後、ここシャレオで、がん検診を呼びかける街頭活動を行います。元カープの高橋建さんに来ていただきまして、この活動を行います。よろしければ、少しだけ残っていただいて、後で検診案内やグッズもお配りしますので、それをお持ち帰りいただいて、周りの方にお知らせしていただければと思います。

以上で本当に終わりでございます。どうも長い間、ありがとうございました。

ごめんなさい。最後にもう一つ、今日発表していただきました皆さんにもう一度大きな拍手をお願いします。

本当に以上で終わりでございます。ありがとうございました。

(司 会)

ありがとうございました。以上をもちまして、「湯崎英彦の宝さがしー未来チャレンジ・トーク」を閉会いたします。御来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

なお、御来場時にお渡ししたアンケートと、「地域の宝ネットワーク」の申込書を受付で回収しておりますので、よろしく願いいたします。

また、この機会に、是非地域の宝ネットワークに御参加をいただければと思います。

本日は、御参加をいただきまして、誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。